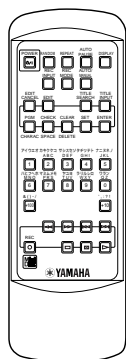
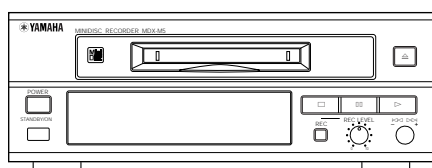




MINIDISC RECORDER

MDX-M5

取扱説明書



このたびは、ヤマハMDレコーダ MDX-M5 をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

MDX-M5 の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管してください。

ご使用の前に必ずお読みください

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などの記入がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

もくじ

ページ

| | | |
|-------------------------------|---------|---------|
| 安全上のご注意..... | 2 ~ 3 | はじめに |
| おもな特長 | 4 | |
| 接続のしかた | 5 ~ 6 | |
| リモコンの準備 | 7 | |
| MDの取り扱いかた | 8 | |
| 各部の名称 | 9 | |
| MDに録音するには | 10 ~ 12 | 再生 / 録音 |
| MDを再生するには | 13 ~ 14 | |
| いろいろな録音のしかた | 15 ~ 18 | |
| いろいろな再生のしかた | 19 ~ 24 | |
| MDを編集するには | 25 ~ 37 | 編集 |
| デジタル録音のルール | 38 | ご参考 |
| システム上の制約について | 39 | |
| メッセージ表示一覧 | 40 | |
| 故障かな?と思ったら | 41 | |
| 仕様 | 42 | |
| ヤマハホットライン サービスネットワーク | 43 | |

安全上のご注意 (安全に正しくお使いいただくために)

ご使用の前に必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。

またお読みになったあと、いつでも取り出せる所に必ず保存してください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

| 設置されるとき | | 使用中に異常が発生したとき | |
|--------------|--|--|--|
| | <p>本機に水を入れたり、ぬらさないようご注意ください。火災・感電の原因となります。表示された電源電圧交流100V以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。</p> <p>本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。</p> <p>電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。</p> | 分解禁止 | <p>電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p> |
| 水場での使用禁止 | <p>風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。</p> | | <p>万一機器の内部に水や異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p> <p>万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。</p> |
| ご使用になるとき | | | <p>万一、本機を落としたり、キャビネットを損傷した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p> |
| | <p>本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。</p> <p>本機の通風孔、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお客様のいるご家庭ではご注意ください。</p> <p>電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。</p> <p>本機のキャビネットは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。本機を改造しないでください。火災・感電の原因となります。</p> | <h3>絵表示の例</h3> <p> 記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。 </p> <p> 〇記号は禁止の行為であることを告げるものです。 </p> <p> 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 </p> | |
| 接触禁止 | <p>雷が鳴り出したら、アンテナ線には触れないでください。感電の原因となります。(外部アンテナ使用時)</p> | | |



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

| 設置されるとき | | ご使用になるとき | |
|---------|--|-----------------|---|
| | アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。 | | 接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続には指定のコードを使用してください。 電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。 付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。 |
| | 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。 ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。 直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがありますので、次の点に注意してください。 | | 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。 レーザー光源をのぞき込まないでください。レーザー光が目にあたると視力障害を起こすことがあります。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。 テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。 | | お子様ディスク挿入口に、手を入れないようご注意ください。けがの原因となることがあります。 |
| | | | 旅行などで長期間本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。 |
| | 本機を設置する場合は、放熱をよくするために他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、本機の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまを開けてください。 | お手入れについて | |
| | 移動する場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。また、MDディスクは取り出しておいてください。それを怠ると故障の原因となることがあります。 | | 1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。本機の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行くと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。 |
| | | | お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。 |

おもな特長

モノラルで記録された音声信号の録音 / 再生が可能です。

サンプリングレートコンバーターを内蔵しているため、48kHz、32kHzのデジタル信号は44.1kHzにレート変換されて録音されます。

下記のようなMDディスクならではの、録音編集を楽しむことができます。

イレース機能（1曲を消す）

ムーブ機能（曲の移動）

ディバイド機能（曲を分ける）

コンバイン機能（曲をつなぐ）

曲やディスクにお好きなタイトル付けることができます。

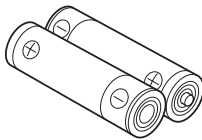
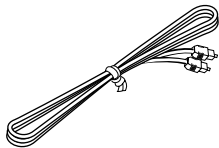
ヤマハCDチェンジャーレシーバCRX-M5などとシステム接続することにより、再生ボタンを押すだけで自動的にMDの入力が選ばれ演奏が始まります。

多機能ワイヤレスリモコンにより、お手軽に操作できます。

はじめに、次のことをお確かめください。

- 1 保証書にお買い上げ店名を記入してもらいましたか。
- 2 付属品はすべてそろっていますか。

付属品

| | | |
|---|---|--|
| リモコンx1 | 単4電池x2 | 光ファイバーケーブルx1 |
|  |  |  |
| | オーディオ接続コードx2 | コントロールコードx1 |
| |  |  |
| | | 取扱説明書x1 保証書x1 |

接続のしかた

他の機器との接続

接続上のご注意

接続は、本機および接続する機器の電源プラグをコンセントから抜いた状態で行ってください。コードは本書の説明どおりに接続してください。音声信号の(右)R端子には接続コードの赤のプラグを、(左)L端子には白のプラグを接続します。

接続コードは最後までしっかりと差し込んでください。しっかり差し込まれていないと、雑音が出る原因になります。

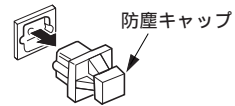
機器によっては接続方法や端子名が異なる場合があります。それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ヤマハCDチェンジャーレシーバCRX-M5と接続するときは、各機器と本機の[C]と[D]の番号がついた端子どうしを接続してください。

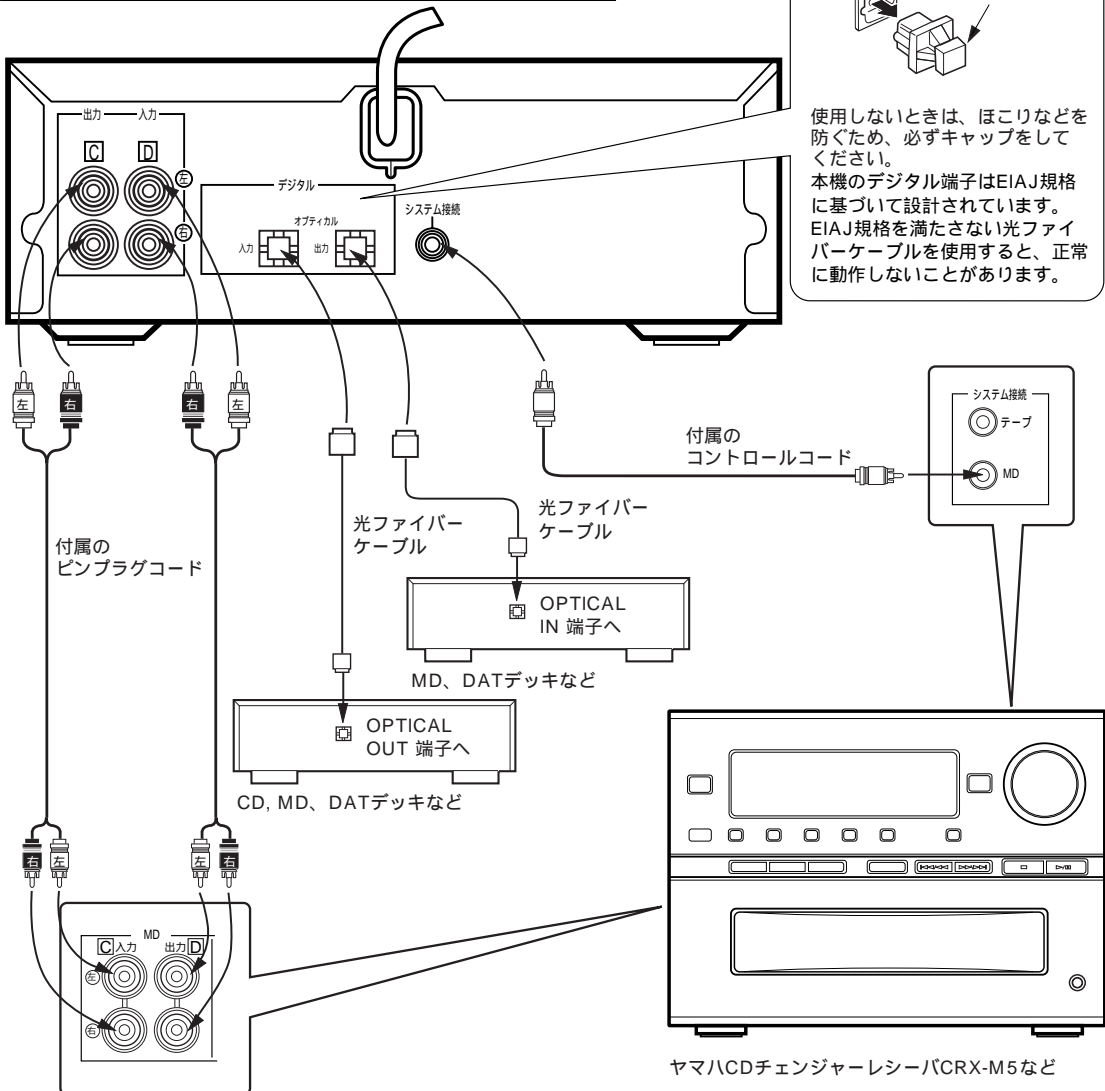
下図では、接続コードのプラグの色を次のように示します。



接続するときは、防塵キャップをはずしてください。



使用しないときは、ほこりなどを防ぐため、必ずキャップをしてください。本機のデジタル端子はEIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。



ヤマハCDチェンジャーレシーバCRX-M5など

接続のしかた

デジタル機器につなぐとき

CDプレーヤーやDATデッキ、他のMDレコーダ、光デジタル入出力端子のあるアンプなどの出力端子とMDX-M5のデジタル入力端子をつなぐと、MDX-M5にデジタル録音できます。

また、MDX-M5のデジタル出力端子と、外部デジタル機器(DATデッキや他のMDレコーダなど)のデジタル入力端子をつなぐと外部のデジタル機器にデジタル録音できます。

本機は「シリアルマネージメントシステム」に準拠しています。

デジタル録音したMDをさらにデジタル録音することはできません。(38ページ)

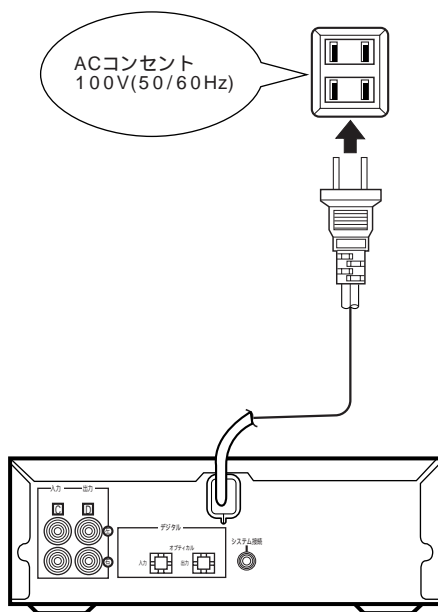
システム接続について

本機のシステム接続端子とヤマハCDチェンジャーレシーバCRX-M5などと接続することにより、システム機能が可能になります。またCRX-M5とのデジタル接続により、デジタル録音ができます。

本機の電源が入っているとき、再生ボタンを押すと、CRX-M5の入力が自動的にMDを選択して、演奏を始めます。

電源コードの接続

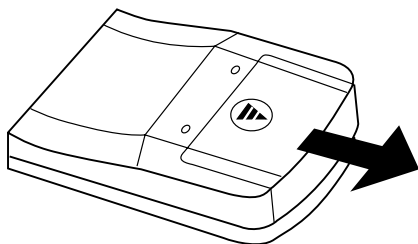
接続が終わったあと、電源コードを接続します。



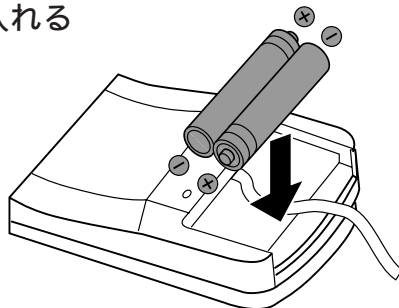
リモコンの準備

乾電池の入れかた

1 裏ぶたをはずす



2 ひもの上に単4乾電池(2個)を入れる



3 ひもを内側に入れて裏ぶたを戻す

乾電池のご注意

乾電池は誤った使い方をすると、液もれが起きたり破れつすることがありますので、次の点に特に注意してください。

乾電池のプラス \oplus とマイナス \ominus の向きを表示どおりに正しく入れてください。

新しい乾電池と一度使用した乾電池をまぜて使用しないでください。

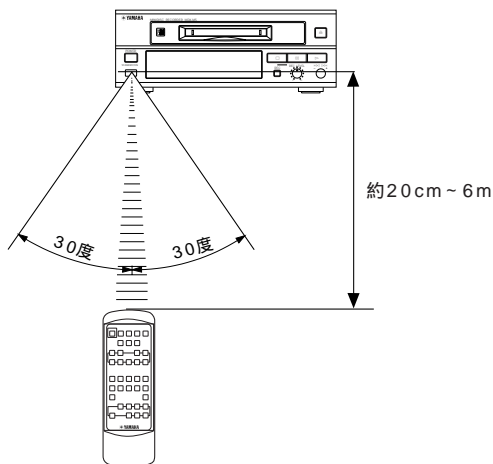
種類のちがう乾電池をまぜて使用しないでください。同じ形状でも電圧の異なるものがあります。

乾電池が使えなくなったり、本機を長い間使わないときは、乾電池を全部取り出してください。

乾電池には充電式と充電式でないものがあります。乾電池の注意表示をよく見てご使用ください。

液もれが起こったときは、ケースの中についた液をよくふき取ってください。

リモコンの使用範囲



リモコン用乾電池の交換時期

リモコン用乾電池の寿命は通常のご使用で約1年間です。

リモコン受信部に近寄らないと動作をしない場合は、乾電池を交換してください。

リモコン取扱上のご注意

受信部とリモコンの間に障害物があると操作できないことがあります。

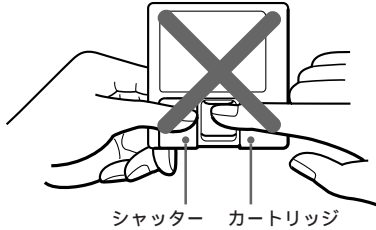
リモコンには衝撃を与えないでください。また、水にぬらしたり、温度の高い所には置かないでください。受信部に直射日光や強い照明(インバーター蛍光灯など)が当たっているとリモコンが働きにくくなります。

照明または製品本体の向きを変えてください。他の機器のリモコンを同時に操作すると、動作をしないことがあります。

MDの取り扱いかた

MDはカートリッジに収納され、ゴミや指紋を気にせず手軽に取り扱えるようになっています。ただし、カートリッジの汚れやそりなどが誤動作の原因になることもあります。いつまでも美しい音で楽しめるように次のことにご注意ください。

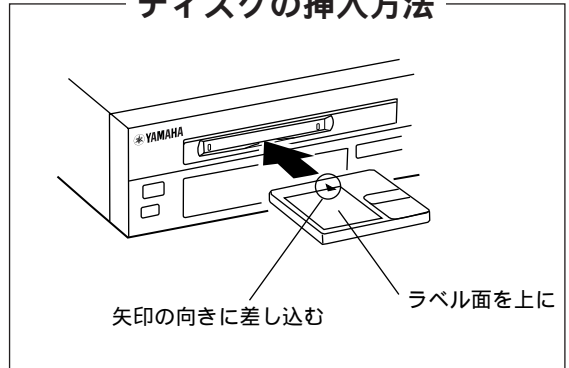
内部のディスクに直接触れないでください
シャッターを無理に開けようとすると、こわれることがあります。



置き場所について
直射日光が当たるところなど温度の高いところや湿度の高いところには置かないでください。

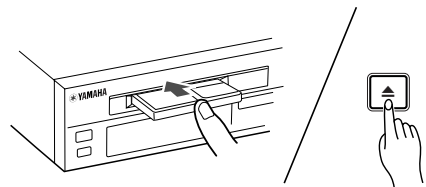
定期的にお手入れを
カートリッジ表面についたホコリやゴミを乾いた布でふき取ってください。

ディスクの挿入方法



挿入途中のディスクの取り出しかた

挿入途中でディスクを取り出す場合は、一度挿入してからEJECT△ボタンを押して取り出してください。



ロック機構が働くと、挿入途中では取り出せません。

MDの使用上の注意

音量を調節するときは
MDはアナログカセットテープに比べ、非常に雑音が少なくなっています。アナログカセットテープのときのように音のない部分で雑音を聞きながら音量を調節すると、思わぬ大音量が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。演奏を始める前には音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット
ステレオで音楽をお楽しみになるときは、となり近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。

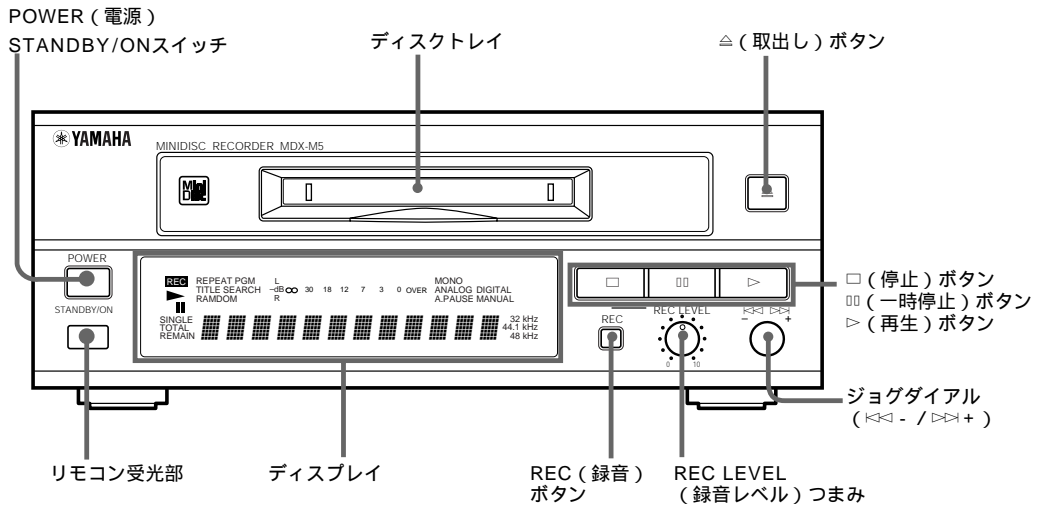
窓をしめたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



結露について
寒いときにお部屋の暖房を入れた直後など、本機の内部に水滴がつくことがあります。これを結露といいます。そのままでは、正常に働かないばかりでなく、MDや部品もいためてしまいます。本機をご使用にならないときは、MDを取り出ししておくことをお勧めします。結露が生じたときは、電源を入れたまま、しばらくの間(約1時間)放置し、再度電源を入れ直してからご使用ください。もし何時間たっても正常に動作しない場合は、ヤマハホットラインサービスネットワークにご連絡ください。

各部の名称

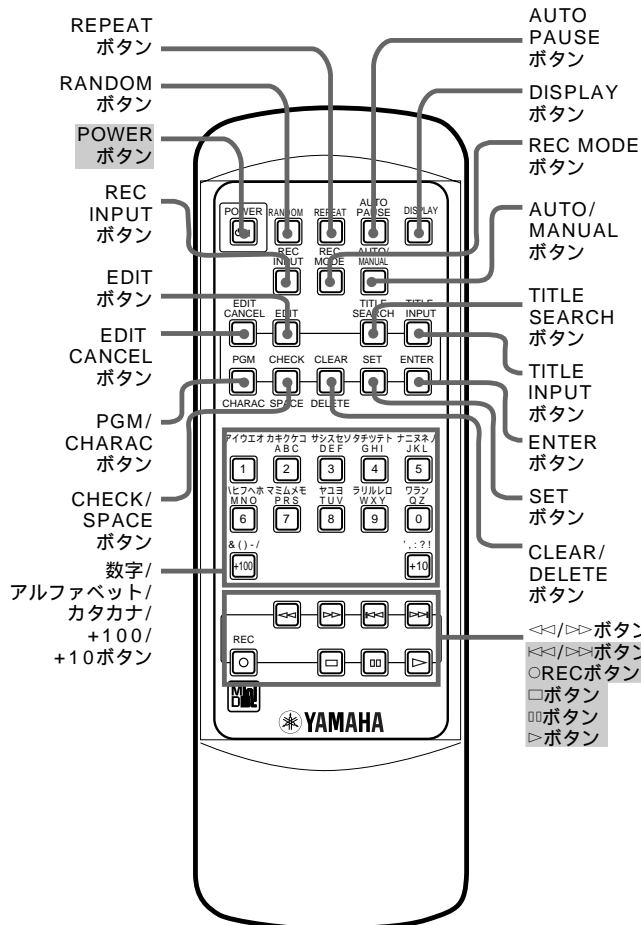
フロントパネル



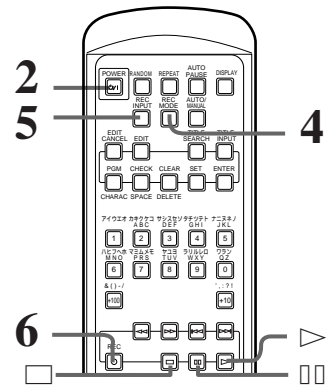
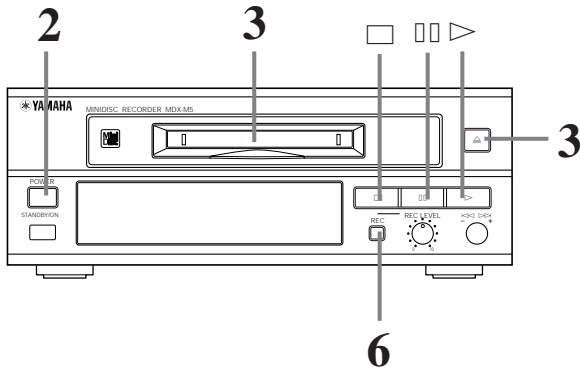
各部の名称

リモコン

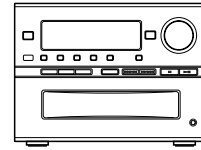
このリモコンのボタンは本体でも操作できます。



MDに録音するには



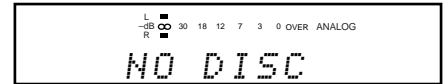
- 録音したい音源とアンプの電源を入れ、アンプでその音源を選ぶ



ヤマハCRX-M5など

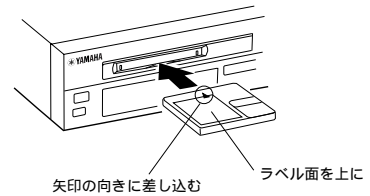
- 本機の電源を入れる

表示窓に「NO DISC」が表示されます。



- 録音用のMDを入れる

表示窓に「READING」が点滅表示されます。



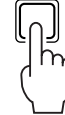
- REC MODEボタンを押して録音モードを設定する

録音中、曲番を自動的に付けるために必要な、無音部で感知する時間(AUTO TIME)、音量(AUTO LEVEL)の設定およびTOCを記録するかないか(REC END WRITING)を設定します。くわしくは16ページの「録音モードを調節するには」をご覧ください。

なお、録音モードを設定しない場合、本機は、通常次のように設定されています。

リモコン

REC
MODE



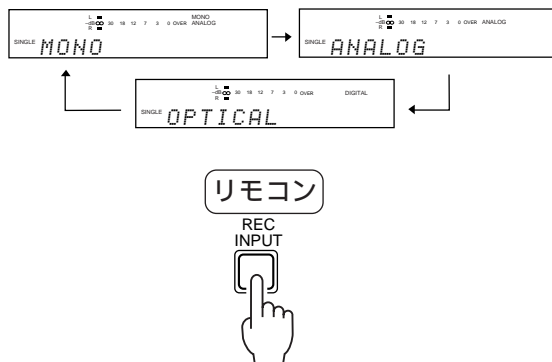
| 録音モード | 初期設定 |
|-----------------|----------|
| AUTO TIME | 2.0 sec. |
| AUTO LEVEL | 0 dB |
| REC END WRITING | ON |

5 REC INPUTボタンを押して入力ソース (録音したい音源)を選択する

ボタンを押すごとに、右のように切り換わります。

| 音源がつながっている端子 | ディスプレイ表示 |
|----------------|-----------------------|
| アナログ入力端子 | ANALOG MONO ANALOG |
| デジタルオプティカル入力端子 | DIGITAL |

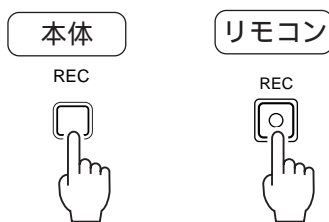
「MONO」または「ANALOG」を選んだときは録音レベルを調節します。くわしくは16ページの「録音レベルを調節するには」をご覧ください。



6 ○REC(録音)ボタンを押す

「NEW TRACK」が一瞬表示された後、録音待機状態になります。(まだ録音は始まりません)

手順5で「OPTICAL」に設定したときに、○RECボタンを押すと表示窓に「UNLOCK」が表示されますが、そのまま手順7に進むと、この表示は消え録音が始まります。



ヒント

サンプリングレートコンバーター機能

本機はサンプリングレートコンバーターを内蔵しているため、32kHz、48kHzのデジタル信号は44.1kHzにレート変換されて録音されます。

ご注意

本機は、電源を入れたとき、MDを入れたとき、△ボタンまたは□ボタンを押したときに「READING」または「WRITING」の表示が点滅されます。本機の操作は、表示が消えてから行ってください。表示の点滅中は本機が正しく働かないことがあります。

「PROTECTED」が表示されたときはMDが誤消去防止状態になっています。誤消去防止つまみをずらして、孔が閉じた状態にすれば録音できます(12ページ)。

MDに録音するには

7 CDまたはテープを録音するとき は、演奏を始める

MDの録音が自動的に始まります。

ラジオの放送局を録音するとき
は、**⏏**(一時停止)ボタンを押すか、
○REC(録音)ボタンをもう一度
押す

MDの録音を始めます。

8 録音を止めるには、CDまたは テープの演奏を止める

MDの録音が自動的に止まります。

放送局の録音を止めるには、**⏏**(停
止)ボタンを押す

「REC STOP」が表示された後、
「WRITING」が点滅表示されます。
点滅が終わると録音が終了します。

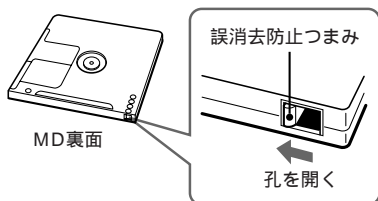
| 操作目的 | 操作のしかた |
|---------|--------------------------------|
| 一時停止* | ⏏ボタンを押す。⏏または▷ボタンを押すと、再び録音が始まる。 |
| 録音を止める | ⏏ボタンを押す。 |
| MDを取り出す | ⏏ボタンを押す。 |

* 録音を一時停止すると、曲番は変わります。
例えば、4曲目を録音中に一時停止したあと、再び録音を始めると、そこからは5曲目として録音されます。

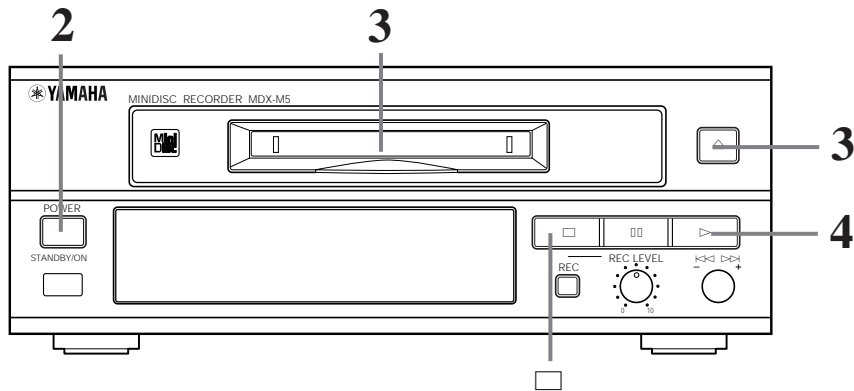
ご注意

「READING」「WRITING」が点滅表示されているときは録音した内容(TOC)をMDに記録しているので、電源プラグをコンセントから抜いたり、本機をゆらしたりしないでください。正しく録音されないことがあります。

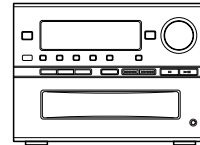
TOCとは「Table of Contents」の略で、曲名などのテキスト情報や、音の情報などを表します。録音内容を間違えて消さないために誤消去防止つまみをずらして、孔を開いた状態にします。再び録音するときは、つまみを元に戻します。



MDを再生するには



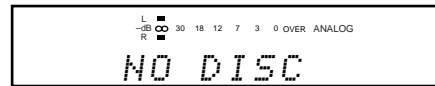
- 1** アンプの電源を入れ、入力切り換えでMDを選ぶ



ヤマハCRX-M5など

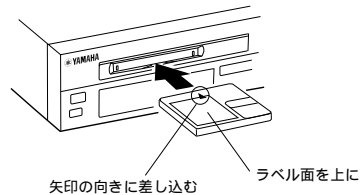
- 2** 本機の電源を入れる

表示窓に「NO DISC」が表示されます。



- 3** 再生したいMDを入れる

スタンバイモードのときに、ディスクを入れると、自動的に電源が入ります。



- 4** 再生をスタートする

本体

リモコン

▷ボタンを押すと、再生がスタートします。
アンプで音量を調節します。

ヒント

手順4で、曲番を選んで再生を始めることができます。
再生したい曲番が表示されるまで、ジョグダイヤルを回す。

再生をストップするには
□ボタンを押す。

MDを再生するには

MDを再生するには

| 操作目的 | 操作のしかた |
|---------|---------------------------------|
| 一時停止する | ⏏ボタンを押す。 |
| 次の曲へ進む | ジョグダイヤルを右に回す。(リモコンでは、▶▶ボタンを押す。) |
| 前の曲へ戻る | ジョグダイヤルを左に回す。(リモコンでは、◀◀ボタンを押す。) |
| MDを取り出す | ⏏ボタンを押す。 |

ご注意

本機は、電源を入れたとき、MDを入れたとき、⏏ボタンまたは⏏ボタンを押したときに「READING」または「WRITING」の表示が点滅されます。本機の操作は、表示が消えてから行ってください。表示の点滅中は本機が正しく働かないことがあります。

いろいろな録音のしかた

録音するときのご注意

「PROTECTED」が表示されたときはMDが誤消去防止状態になっています。誤消去防止つまみをずらして、孔が閉じた状態にすれば録音できます(12ページ)。

「DISC FULL」が表示されたときはディスクに録音する余裕がありません。

「PLAY ONLY」が表示されたときは再生専用のディスクが入っています。

「UNLOCK」が表示されたときはREC INPUTボタンで「OPTICAL」を選択しているのに、録音したい音源がデジタル入力端子につながっていません。REC INPUTボタンで「ANALOG」を選択するか、音源をデジタル入力端子につなぎ直してください。入力ソースの電源が入っていません。入力ソースの電源を入れてください。デジタル録音中にデジタル信号の入力が中断しました。録音を続けるときは、音源をもう一度再生します。録音をやめるときは、音源の演奏をストップさせます。

「Not Audio」が表示されたときは入力されたデジタル信号がオーディオのための信号ではありません。

録音したい入力ソースによって曲番の付きかたが異なります

CDまたはMDが音源で、入力ソースに「OPTICAL」を選択して録音する場合
曲番は、音源のCDやMDと同じように付きます。ただし、同じ曲を繰り返し録音するときは、繰り返した部分に対して、曲番は1つしか付かないことがあります。また、MDが音源のとき、4秒以下の曲には曲番が付かないことがあります。

マニュアルトラックマーキングがオンになっている(MANUAL点灯)場合
録音した部分全体で1曲として扱うため、曲番は1つしか付きません。ただしマニュアル(手動)操作することにより、録音中または録音後に好きなところに曲番を付けることができます。

マニュアルトラックマーキングがオフになっている(MANUAL消灯)場合は、曲番は自動的に付きます。
くわしくは17ページの「録音中に曲番をつけるには」を参照ください。

「WRITING」、「READING」が点滅表示されているときは録音した内容(TOC)をMDに記録しているため、電源プラグをコンセントから抜いたり、本機をゆらしたりしないでください。正しく録音されないことがあります。

TOCとは「Table of Contents」の略で、曲名などのテキスト情報や、音の情報などを表します。

本機は「シリアルコピーマネージメントシステム」に準拠しています

「SCMS ON」が表示されているときは、デジタル録音したMDをさらにデジタル録音することはできません(くわしくは38ページの「デジタル録音のルール」を参照ください。)

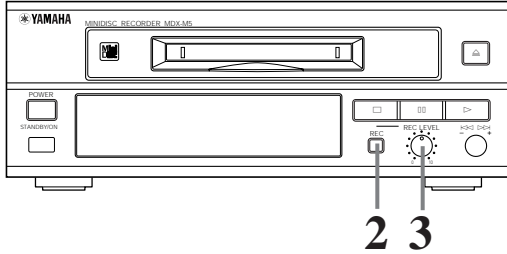
あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、この商品の価格には、著作権法の定めにより、私的録音補償金が含まれております。

お問い合わせ先

(社)私的録音補償金管理協会 Tel. 03-3506-8407

録音レベルを調節するには

REC INPUTボタンで「MONO」または「ANALOG」に設定して(LINE IN端子につないである音源を録音するとき、録音を始める前に録音レベルを調節します。



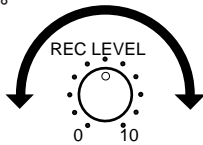
- 1 録音したい音源を再生する
- 2 ○REC(録音)ボタンを押す



録音待機状態になります。(まだ録音は始まりません)

- 3 録音レベルを調節する

録音したい音源の、一番大きい音の(再生レベルの一番高い)部分を演奏し、ピークレベルメーターの赤(OVER)が点灯しないようにREC LEVELつまみを回して録音レベルを調節します。

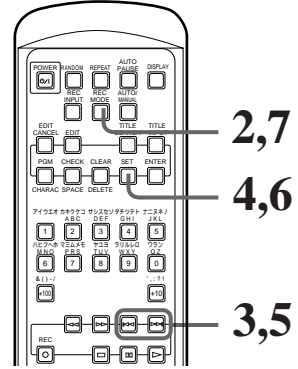


- 4 CDまたはテープの再生を止める
ラジオの放送局の場合は、REC INPUTをアナログに設定し、⏏(一時停止)ボタンを押すか、○REC(録音)ボタンをもう一度押して録音を始める

CDまたはテープの録音を始めるときはもう一度最初から録音したい音源を再生して録音をスタートさせます。くわしくは10ページの「録音を始めるには」をご覧ください。

録音モードを調節するには

録音中、曲番を自動的に付けるために必要な、無音部で感知する時間(AUTO TIME)、音量(AUTO LEVEL)の設定およびTOCを記録するかしないか(REC END WRITING)を設定します。



- 1 「MDに録音するには(10ページ)の手順1~3を行なう
- 2 REC MODEボタンを押す



「AUTO TIME ?」が表示されます。

- 3 ◀または▶を押して調節するモードをえらぶ



◀または▶ボタンを押すごとに次のように表示が切り換わります。

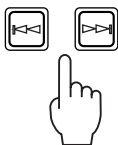
AUTO TIME? → AUTO LEVEL?
 ↑ REC-WRITING? ↓

4 SETボタンを押して調節したいモードを決定する



各モードが次のように表示されます。
 AUTO TIMEモードのとき: TIME 2.0 sec.
 AUTO LEVELモードのとき: LEVEL 0 sec.
 REC WRITINGモードのとき: WRITING ON

5 ◀◀または▶▶を押してモードを調節する



◀◀または▶▶ボタンを押すごとに各モードを次のように調節できます。

AUTO TIME: 0.5 ↔ 1.0 ↔ 1.5 ↔ * 2.0
 ↓

4.0 ↔ 3.5 ↔ 3.0 ↔ 2.5

AUTO LEVEL: -2 ↔ -1 ↔ * 0 ↔ +1 ↔ +2

REC→WRITING: *ON ↔ OFF

*のついた数値 / 状態が初期設定されています。

6 他のモードを調節する場合はSETボタンを押してから手順3-5を繰り返す



7 録音モードの設定が終わったらREC MODEボタンを押す

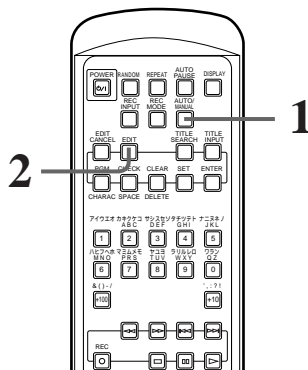


録音モードの設定が完了します。
 録音を始めるときは、「MDに録音するには」(11ページ)の手順5から行ないます。

録音中に曲番を付けるには

録音した曲に曲番を付けることをトラックマーキングと呼びます。本機はトラックマーキングを自動的に行いますが(オートトラックマーキング)、録音中に自分で曲番を付けることもできます(マニュアルトラックマーキング)。

曲の途中に曲番を付けておけば、録音後に編集がしやすくなります。



1 AUTO/MANUALボタンを押してMANUALインジケータを点灯させる



2 録音中、好きなところでEDITボタンを押す



「NEW TRACK」が表示され、その位置に新しい曲番が付きます。

いろいろな録音のしかた

曲番を付け間違えたときは

曲の途中で○RECボタンを誤って押してしまったら、曲番を付け忘れた場合は、もう一度録音し直すか、録音後に「曲を分けるには(ディバイド機能)(31ページ)や「曲をつなぐには(コンパイン機能)(32ページ)を使って、編集することもできます。

録音後に曲番を付けることもできます

編集操作で曲を分けることもできます。この時、曲番が1つずつ加算されて記録されます。くわしくは「曲を分けるには(ディバイド機能)(31ページ)をご覧ください。

オートトラックマーキング

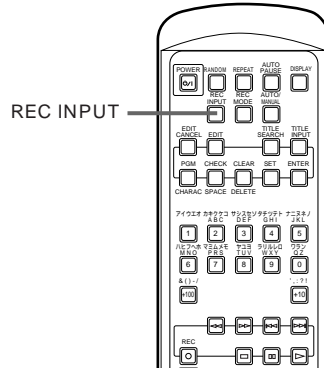
本機は通常の状態、トラックマーキングを自動的にを行います。(MANUALインジケータが消灯している状態)これをオートトラックマーキングと呼びます。

ご注意

入力ソースに「MONO」または「ANALOG」が選択されている場合、録音したい音源の入力信号が2秒以上続けて一定のレベル以下にならないとオートトラックマーキングは動きません。

モノラル録音をするには

録音する内容が会話や会議など音質を問わないもの場合は、モノラル録音することができます。モノラル録音はディスクの録音時間が倍になります。



REC INPUTボタンを押して、MONO ANALOGインジケータを点灯させる

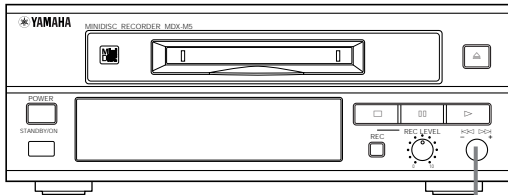


モノラル録音可能になります。

録音方法については、10ページの「録音を始めるには」をご覧ください。

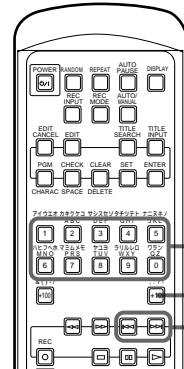
いろいろな再生のしかた

とびこして聞くには



ジョグダイヤル

曲番を指定して聞くには



数字ボタン

+10

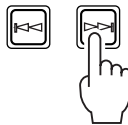
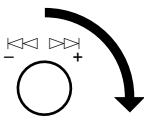
◀または▶

次の曲の頭から聞く

再生中に、ジョグダイヤルを右に回す。(リモコンの▶▶ボタンを押す。)

本体

リモコン

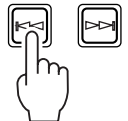
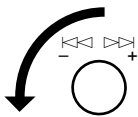


再生中の曲または前の曲を頭出しする

再生中に、ジョグダイヤルを左に回す。(リモコンの◀◀ボタンを押す。)

本体

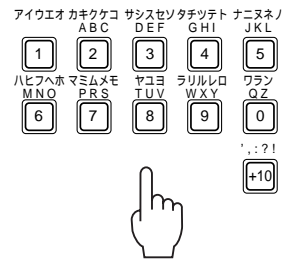
リモコン



曲の頭で一時停止する
一時停止中、ジョグダイヤルを回す。
(リモコンでは、一時停止中に ◀◀または▶▶ボタンを押す。)

MDの最後の曲から選ぶ
停止中にジョグダイヤルを左へ回す。
(リモコンでは◀◀ボタンを押します。)

聞きたい曲番を数字ボタンで指定する



選んだ曲の頭から演奏を始めます。

1 ~ 9、0 ボタン: 1の位を指定
+10 ボタン: 10の位を指定

12曲目を選ぶときは
+10 → 2 と押します。

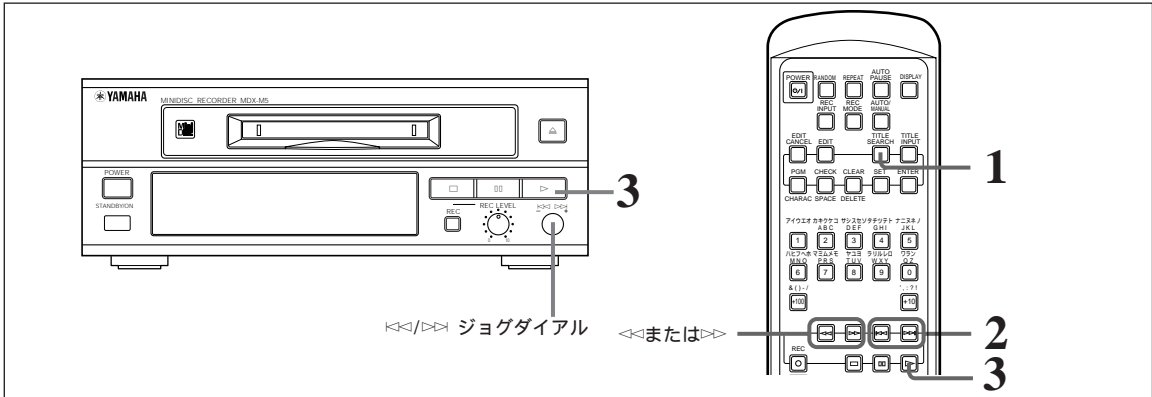
22曲目を選ぶときは
+10 → +10 → 2 と押します。

*2つ以上のボタンを押すときは、7秒以内に押しません。

MDに入っている曲数より大きい曲番を指定しても受けつけません。

曲名を指定して聞くには

曲の中の聞きたい部分を探すには



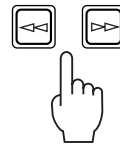
曲にタイトルを入力しておくで、「曲名やディスク名を付けるには」→ 34ページ) 曲名で選曲することができます。

再生中に探す

1 TITLE SEARCH ボタンを押す



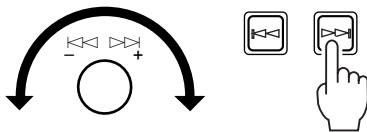
再生中に、サーチボタンを押し続け、聞きたい所で、サーチボタンから指を離す



ボタンを押しているあいだは音量が小さくなり、指を離すとその位置から演奏が始まり、元の音量に戻ります。

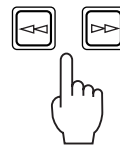
2 ジョグダイヤル(リモコンの<<>>または>>>ボタン)を押す。

本体 リモコン



一時停止中に探す (高速サーチ)

一時停止中に、サーチボタンを押し続け、聞きたい所で、サーチボタンから指を離す(音は聞こえません)



3 >>>を押す



再生が始まります。

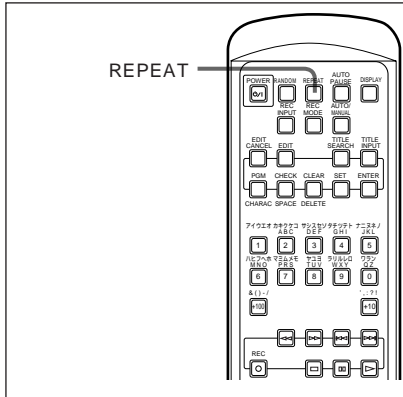
▶▶▶ボタンを押すと再生が始まります。

ご注意

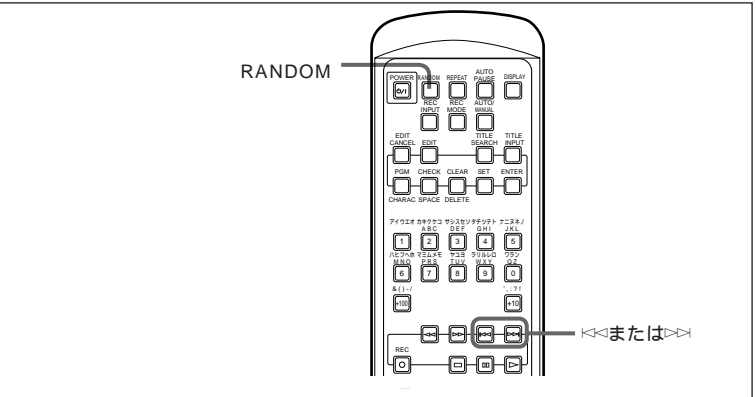
サーチして最後の曲の終わりまで進んでしまうと、再生(サーチ)はストップします。数秒の曲が連続している場合、正常にサーチできないことがあります。

いろいろな再生のしかた

繰り返し聞くには(リピート再生)



順不同に聞くには(ランダム再生)



REPEATボタンを押す



REPEATインジケータが点灯し、現在再生中のディスクを全曲繰り返し聞けます(曲番順)。停止中に設定してから、再生をスタートすることもできます。

ヒント

1曲だけ繰り返したいときはその1曲をプログラムしてリピート再生します。「聞きたい曲を好きな順に聞くには(プログラム再生)」→23ページ)

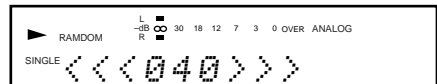
再生状態に応じて次のように繰り返し聞けます。

| 再生状態 | 繰り返される内容 |
|----------------|------------------|
| ふつうの再生(13ページ) | 全曲を曲番順に |
| ランダム再生(22ページ) | 全曲を繰り返すたびに曲順を変えて |
| プログラム再生(23ページ) | プログラムした曲順に |

リピート再生をやめるときはREPEATボタンを押してREPEATインジケータを消す。

全曲を曲番に関係なく、本機がランダム(無作為)に選んで、ひと通り再生します。

停止中にRANDOMボタンを押す



ランダム再生が始まります。

ランダム再生をやめるときはRANDOMボタンを押してRANDOMインジケータを消す。

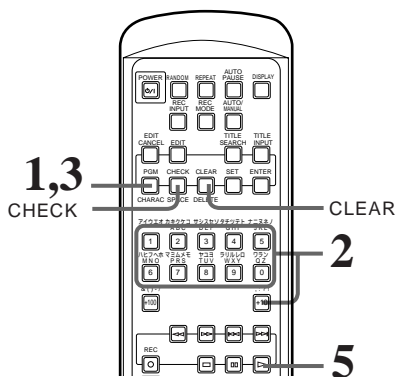
ヒント

ランダム再生中に頭出しできます。SKIP <<または>>ボタンを押す。(本体ではジョグダイヤルを回す。)

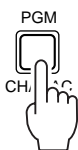
SKIP >>を押す(ジョグダイヤルを右に回す)と、次の曲をランダムして再生します。SKIP <<を押す(ジョグダイヤルを左に回す)と、再生中の曲の頭に戻って再生します。すでに再生し終わった曲には戻りません。

聞きたい曲を好きな順に聞くには(プログラム再生)

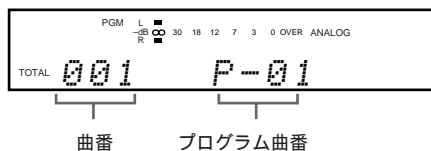
32曲までプログラムできます。



- 1 停止中、PGMボタンを押す
PGMインジケーターが点灯します



- 2 数字ボタンを押して曲番を選ぶ。
指定した曲番が点滅します。



- 3 曲番が点滅しているあいだに、PGMボタンを押す



プログラム全体の曲数と合計再生時間が表示されます。

間違えたとき
CLEARボタンを押してから、正しい数字ボタンを押す。

- 4 手順2,3を繰り返して、聞きたい曲を順にプログラムする

曲をプログラムするごとに、合計時間が表示されます。最大32曲までプログラムできます。

- 5 ▷ボタンを押す



プログラムした順に再生が始まります。

プログラム再生をふつうの再生に戻すときは停止中、PGMボタンを押してPGMインジケーターを消す。(作成したプログラムは消去されます。) また、電源を切ってもプログラムは解除されます。

ヒント

繰り返したい回数だけ数字ボタンを押すと同じ曲を繰り返しプログラムできます。
プログラムすべての再生が終わっても、PGMインジケーターが点灯している間は作ったプログラムは残っています。
▷ボタンを押すと、同じプログラムをもう一度聞けます。

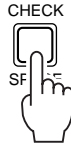
ご注意

プログラムの合計時間が255分を超えると、正確な時間が表示されないことがあります。
プログラムした曲が32曲以上になると表示窓に「FULL」が表示されそれ以上はプログラムできません。

いろいろな再生のしかた

プログラムの内容を確認するには

停止中、または再生一時停止中に、CHECKボタンを押す。



プログラムの曲順で、曲番が表示されます。

プログラムの内容を変更するには

再生を始める前、プログラムの内容を変更できます。

プログラムした曲を消すには
停止状態でCLEARボタンを押すと、最後にプログラムされた曲番から順に消されます。

曲を変更するには

- 1 停止中にCHECKボタンを押して変更したいプログラム内容を表示させる。
- 2 変更する曲番の数字ボタンを押す。
- 3 曲番が点滅しているあいだに、PGMボタンを押す。

曲を追加するには

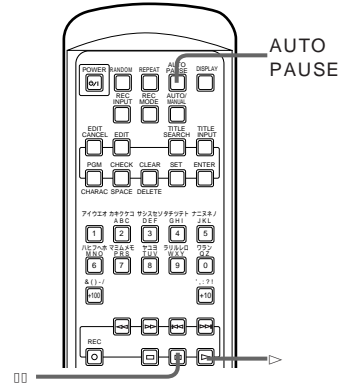
- 1 停止中に追加したい曲番の数字ボタンを押す。
- 2 曲番が点滅しているあいだに、PGMボタンを押す。プログラムの最後に追加されます。

すべてを変更するには

停止中、PGMボタンを押してPGMインジケータを消した後、もう一度PGMボタンを押してプログラムしなおしてください。

曲が終わると自動的に一時停止するには

曲番が変わる度に自動的に一時停止状態になります。(オートポーズ機能)この機能は語学学習などのとき便利です。



AUTO PAUSEボタンを押してA.PAUSEインジケータを点灯させる



曲が変わる度に一時停止状態になります。

ふたたび再生させるときは
▷または00ボタンを押します。

オートポーズをやめるとき

AUTO PAUSEボタンを押してA.PAUSEインジケータを消す。

また、電源を切ってもオートポーズは解除されます。

MDを編集するには

編集メニューについて

編集機能では、録音したディスクの好きなところで頭出しができるように曲を途中から分けたり、2つの曲をつなぐなど、録音後に手直ししたり、曲番を指定するだけで曲をまるごと消すことができます。ディスクや曲に名前を付けたりすることもできます。(「曲名やディスク名を付けるには」→34ページ)

編集メニューには以下の7種類があります。

- 曲を消す:ERASE(イレース)
- 曲を移動する:MOVE(ムーブ)
- 曲を分ける:DIVIDE(ディバイド)
- 曲をつなぐ:COMBINE(コンバイン)
- 編集の取り直し:EDIT CANCEL
(エディットキャンセル)

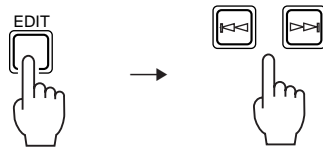
ご注意

プログラムモードになっているときは編集機能は動きません。

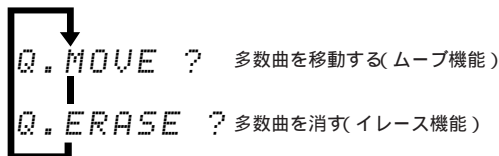
「PROTECTED」が表示されたときはディスクが誤消去防止状態になっていて、曲を消すことができません。ディスクの誤消去防止つまみをずらして孔が閉じた状態にしてから、曲を消してください。編集を行った後は、表示窓でWRITINGが表示されます。

ディスクを取り出そうとするか、電源を切ろうとすると、「WRITING」が表示され、編集した内容をディスクに記録します。「WRITING」表示中は編集した内容を記録しているので、本機をゆらしたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。

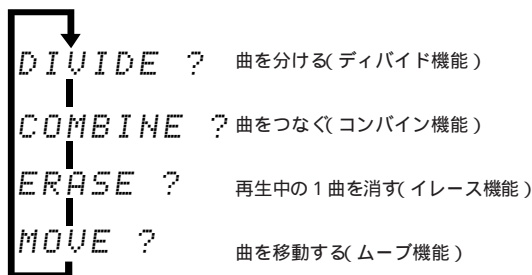
EDITボタンを押して、◀または▶を押すたびに、編集メニューが下記のように切り替わり表示窓に表示されます。



[TRACK 表示中(停止状態)



[TRACK 表示中(再生中、一時停止中)



MDを編集するには

曲を消すには (ERASE機能)

消したい曲の曲番を指定するだけで、録音した曲を簡単に消せます。消した曲番には次の曲が順に繰り上がり、自動的に改めて連続した曲番が付きます。

例えば、曲番1を消すと、元の曲番2が1に繰り上がります。

(2曲以上消すときは、途中の曲番が変わらないように、後ろの曲から消すことをおすすめします。)

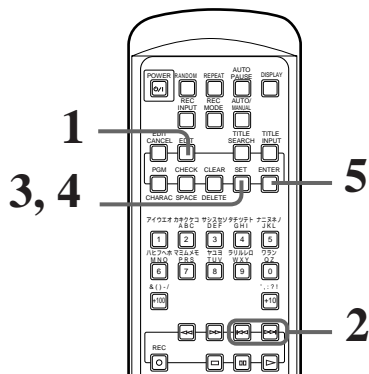
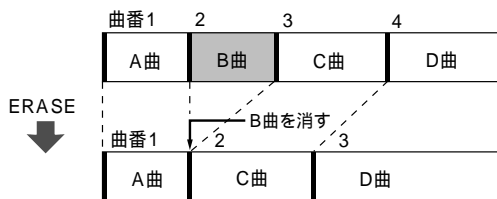
カセットテープのように録音済みの曲を消しながら録音する必要はありません。

曲番を指定するだけで、1曲をまるごと消すことができます。

一度消してしまった曲を戻すことはできませんので消してしまう前に確認してください。

再生中の1曲を消すには

例)2曲目のB曲を消すとき

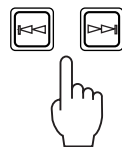


1 消したい曲の再生中にEDITボタンを押す



8秒以内に手順2の操作をしてください。8秒以上たつとエディットモードは解除されるので、そのときはもう一度EDITボタンを押してください。

2 「DIVIDE?」が表示されているあいだに「ERASE?」が表示されるまで◀◀または▶▶ボタンを押す



3 SETボタンを押す



「-+002?」が表示されます。

4 消そうとする曲番を確認してSETボタンを押す



「ok?」が表示されます。

5 ENTERボタンを押す



次のように表示され、指定した曲が消されます。

「EDIT NOW」→「COMPLETE!」
本機は次の曲の前で再生一時停止の状態になります。

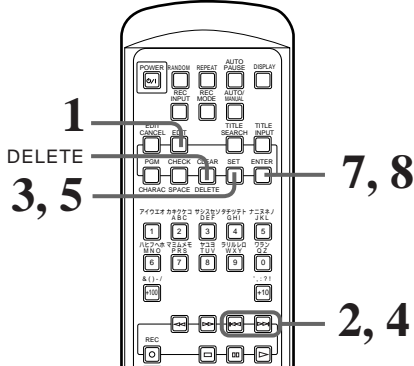
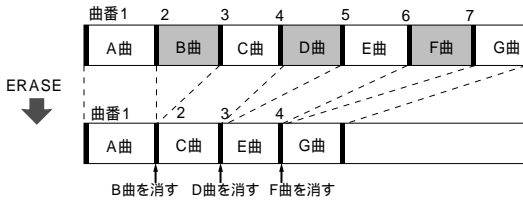
ご注意

「CAN'T EDIT」が表示されたら、曲を消すことができません。

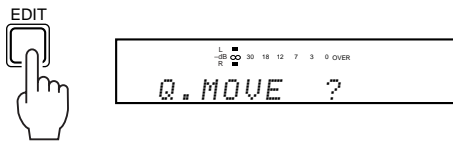
何度も編集を繰り返すと、消すことができない曲ができる場合があります。これはミニディスクのシステム上の制約なので故障ではありません。

停止中に多数曲を消すには

例) 2曲目、4曲目、6曲目を消すとき

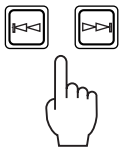


1 停止中にEDITボタンを押す



8秒以内に手順2の操作をしてください。
8秒以上たつとエディットモードは解除されるので、そのときはもう一度EDITボタンを押してください。

2 「Q. MOVE?」が表示されているあいだに「Q. ERASE?」が表示されるまで◀◀または▶▶ボタンを押す

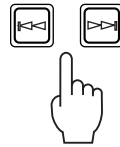


3 SETボタンを押す



「←ALL?」が表示されます。
全曲を消したいときは、手順7にすすみます。

4 消したい曲番を指定します



曲番2を指定すると「←002?」が表示され、指定した曲番「002?」が点滅します。

5 SETボタンを押して指定した曲を確認する



「002←003?」が表示され、次の曲番が点滅します。

6 手順4-5を繰り返して消したい曲番を指定する

DELETEボタンを押すたびに最後に指定した曲番から一つずつ取り消されます。
指定した曲すべてを取り消したいときはEDITボタンを押します。

7 消したい曲番を確認してENTERボタンを押す



「ok?」が表示されます

8 ENTERボタンを押す



次のように表示され、指定した曲が消されます。
「EDIT NOW」→「COMPLETE!」
本機はディスクの頭で停止の状態になります。

MDを編集するには

ヒント

「DISC ERROR」が表示されるときは、上記の手順で全部の曲を消すとディスクの内容を正しく読む場合があります。

ご注意

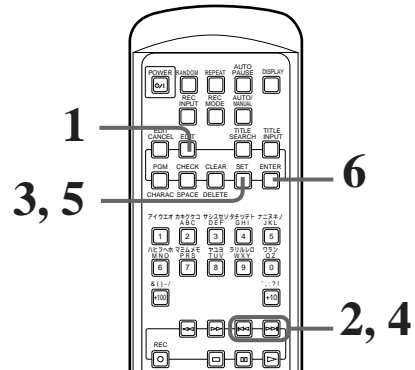
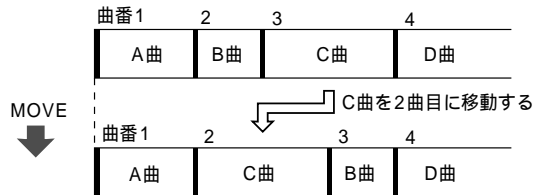
「CAN'T EDIT」が表示されたら、曲を消すことができません。何度も編集を繰り返すと、消すことができない曲ができる場合があります。これはミニディスクのシステム上の制約なので故障ではありません。

曲を移動するには (MOVE機能)

ある曲を好きな位置に移動して、曲順を変えることができます。移動後の曲番は、自動的に改めて連続した曲番が付きます。

再生中の1曲を移動するには

例) C曲(3曲目)を2曲目に移動するとき

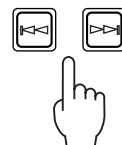


1 移動したい曲を再生してEDITボタンを押す



8秒以内に手順2の操作をしてください。8秒以上たつとエディットモードは解除されるので、そのときはもう一度EDITボタンを押してください。

2 「DIVIDE?」が表示されているあいだに「MOVE?」が表示されるまで<<<または>>>ボタンを押す

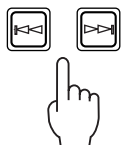


3 SETボタンを押す



「003→ 001?」が表示され、「001?」が点滅します。

4 <<または>>ボタンを押して移動先の曲番を指定する



2曲目を指定すると「003→ 002?」が表示され、指定した曲番「002?」が点滅します。

5 移動先の曲番を確認してSETボタンを押す



「ok?」が表示されます。

6 ENTERボタンを押す



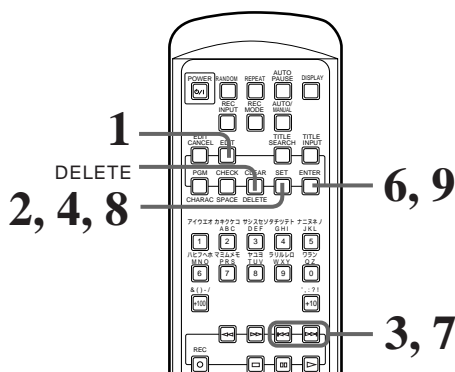
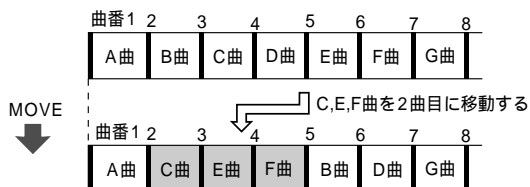
次のように表示され、指定した曲が移動します。

「EDIT NOW」→「COMPLETE!」
本機は移動した曲の前で再生一時停止の状態になります。

停止中に多数曲を移動するには

希望する順番に最大2曲まで曲を選んで移動することができます。

例) C, E, F曲(3曲目、5曲目、6曲目)を1曲目と2曲目の間に移動するとき



1 停止中にEDITボタンを押す



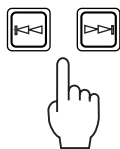
8秒以内に手順2の操作をしてください。
8秒以上たつとエディットモードは解除されるので、そのときはもう一度EDITボタンを押してください。

2 「Q.MOVE?」が表示されているあいだにSETボタンを押す



「/+001?」が表示され、「001?」が点滅します。

- 3 ◀◀または▶▶ボタンを押して移動する曲番を指定する



曲番3を指定すると「/+003?」が表示され、指定した曲番「003?」が点滅します。

- 4 移動する曲番を確認してSETボタンを押す



「003/+004?」が表示され、次の曲番が点滅します。

- 5 手順3-4を繰り返して移動したい曲番を指定する

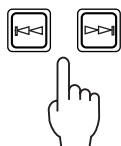
DELETEボタンを押すたびに最後に指定した曲番から一つずつ消されます。指定した曲すべてを取り消したいときはEDITボタンを押します。

- 6 ENTERボタンを押す



「TOP/+?/001」が表示され、「+?」点滅します。

- 7 ◀◀または▶▶ボタンを押して移動先の曲番を指定する



1曲目と2曲目の間を指定すると「001/+?/002」が表示され「+?」が点滅します。

- 8 移動先の曲番を確認してSETボタンを押す



「ok?」が表示されます。

- 9 ENTERボタンを押す



次のように表示され、指定した曲が移動します。「EDIT NOW」→「COMPLETE!」本機は停止状態になります。

ヒント

「COMPLETE!」が点滅しているときに、△ボタンやPOWERスイッチを押すと曲の移動を途中で中止することができます。

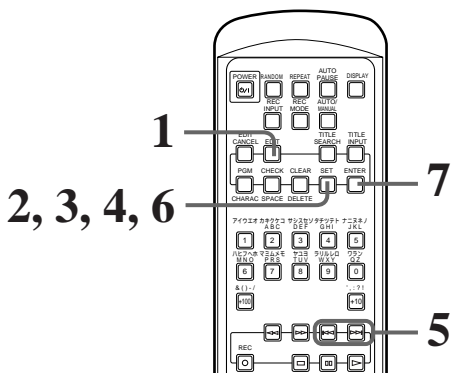
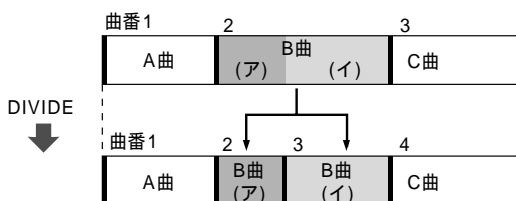
ご注意

「CAN'T EDIT」が表示されたら、曲を移動することができません。何度も編集を繰り返すと、移動することができない場合があります。これはミニディスクのシステム上の制約なので故障ではありません。

曲を分けるには (DIVIDE 機能)

録音後に1曲を2つの曲に分け、新たに頭出しのための曲番を記録します。マニュアルトラックマーキング(1ページ)で録音したMDなどで1つの曲番に複数の曲が録音されている場合や、曲の途中で頭出し点をつくるときに使用します。分けた曲以降の曲番は順に1番ずつ加算され、自動的に改めて連続した曲番が付きます。

例) 曲番2のB曲を(ア)(イ)の2つに分けるときの



1 再生中、分割したい地点でEDITボタンを押す



8秒以内に手順2の操作をしてください。
8秒以上たつとエディットモードは解除されるので、そのときはもう一度EDITボタンを押してください。

2 「DIVIDE」が表示されているあいだにSETボタンを押す



「002< >003?」が表示され、「?」が点滅します。分け目を調節しない場合はENTERボタンを押して手順7に進んでください。

3 SETボタンを押して分割した地点を検索するモードにする



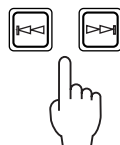
「DIVIDE+00」が表示されます。

4 SETボタンを押して分割した地点の検索を始める



「PREVIEW 0 SEC」が表示され、分け目の最初3秒間が繰り返しリハーサル演奏されます。

5 分け目がずれているときは<<<または>>>ボタンを押して調節する



EDITボタンを押した地点から前に6/100秒間隔で32段階まで調節することができます。

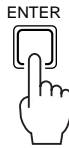
MDを編集するには

6 分割する部分を確認してSETボタンを押す



「ok?」が表示されます。

7 ENTERボタンを押す



次のように表示され、指定した地点で分割されます。

「EDIT NOW」→「COMPLETE!」

本機は分割した地点で再生一時停止の状態になります。

ご注意

「CAN'T EDIT」が表示されたら、曲を分割することができません。

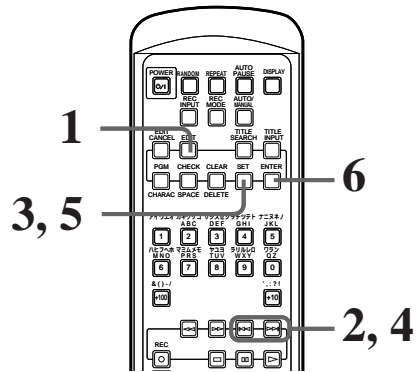
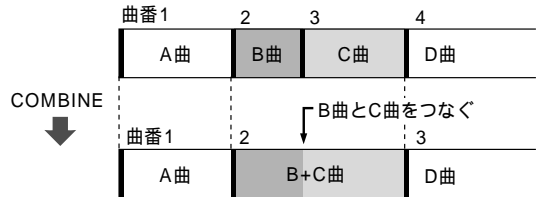
何度も編集を繰り返すと、分割することができない場合があります。これはミニディスクのシステム上の制約なので故障ではありません。

分割した2曲間には無音部はありません。

曲をつなぐには (COMBINE機能)

2つの曲をつないで1曲にまとめます。いくつかの曲を続けて聞けるようにしたり、何度も停止してコマ切れで録音したものを1つにまとめたりするときなどにお使いください。

例) 2曲目と3曲目をつなぐとき

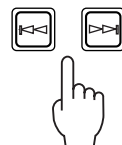


1 つなぐ曲を再生してEDITボタンを押す



8秒以内に手順2の操作をしてください。
8秒以上たつとエディットモードは解除されるので、そのときはもう一度EDITボタンを押してください。

2 「DIVIDE?」が表示されているあいだに「COMBINE?」が表示されるまで◀◀または▶▶ボタンを押す

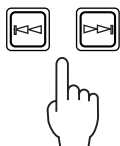


3 SETボタンを押す



「002+ 003?」が表示され、「003?」が点滅します。

4 <<または>>ボタンを押して加えたい曲番を指定する



曲番3を指定すると「002+ 003?」が表示され、「003?」が点滅します。

5 加えたい曲番を確認してSETボタンを押す



「ok?」が表示されます。

6 ENTERボタンを押す



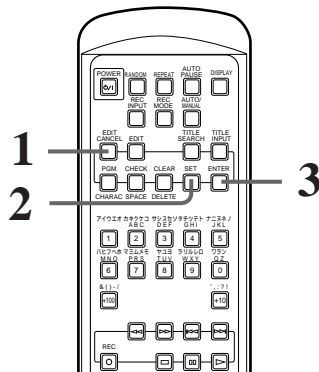
次のように表示され、指定した曲をつなぎます。

「EDIT NOW」→「COMPLETE!」

本機はつないだ曲の前で再生一時停止の状態になります。

編集を取り消すには

本機には、直前に実行した編集操作を取り消すエディットキャンセル機能があります。



1 停止中にEDIT CANCELボタンを押す



8秒以内に手順2の操作をしてください。8秒以上たつとエディットキャンセルモードは解除されるので、そのときはもう一度EDIT CANCELボタンを押してください。

2 「CANCEL?」が表示されているあいだにSETボタンを押す



「ok?」が表示されます。

3 ENTERボタンを押す



次のように表示され編集の取り消しが完了します。

「CANCEL NOW」→「COMPLETE!」

ご注意

「CAN'T EDIT」が表示されたら、曲をつなぐことができません。

何度も編集を繰り返すと、つなぐことができない場合があります。これはミニディスクのシステム上の制約なので故障ではありません。

MDを編集するには

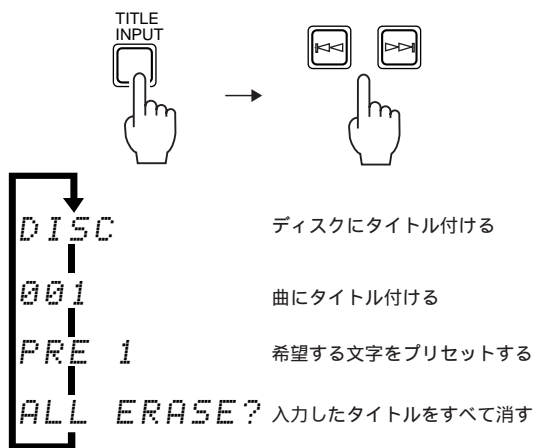
本機は、アルファベットの大文字や小文字、数字、記号を使って、曲名やディスク名を付けることができます(タイトル機能)。1枚のMDで最大約1792文字まで入力できます。

またプリセットタイトル機能によりあらかじめ好きな文字を記憶させることができ、より便利にタイトル入力することができます。

曲名を付けておくと曲名を選んで再生するときに便利です。(「曲名指定して聞くには」→21ページ)

タイトル編集メニューについて

TITLE INPUTボタンを押して◀◀または▶▶を押すたびに、編集メニューが次のように切り替わり表示窓に表示されます。



プリセットタイトル機能について

本機にはあらかじめ次の文字がプリセットされているので、タイトルを付けるとき、プリセット番号を指定するだけで簡単に文字が入力できます。好きな文字にプリセットしなおすこともできます。

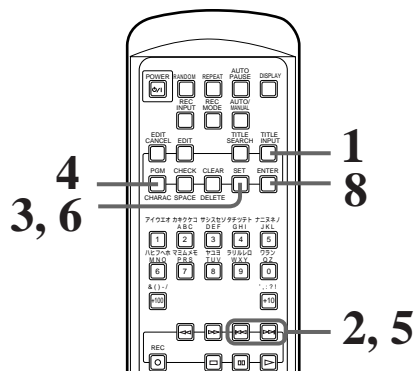
- PRE 1: Pops
- PRE 2: Rock
- PRE 3: Classic
- PRE 4: Jazz
- PRE 5: Disco
- PRE 6: Best Hits
- PRE 7: Air Check
- PRE 8: NO
- PRE 9: Vol

ご注意

編集を行った後は、表示窓に「WRITING」が表示されません。

△ボタンまたはPOWER(電源)ボタンを押すと、「WRITING」が表示され、編集した内容をディスクに記録します。「WRITING」表示中は、編集した内容を記録しているので、本機をゆらしたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。

曲名やディスク名を付けるには

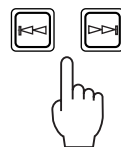


1 TITLE INPUTボタンを押す



8秒以内に手順2の操作をしてください。8秒以上たつとタイトル入力モードは解除されるので、そのときはもう一度TITLE INPUTボタンを押してください。

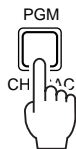
2 TITLEインジケータが点滅しているあいだに◀◀または▶▶ボタンを押して編集メニューを選ぶ



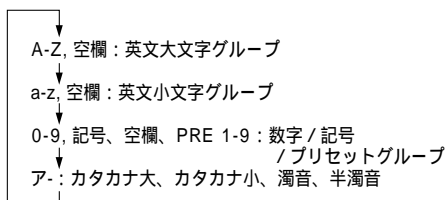
3 SETボタンを押す



4 CHARACボタンを押して入力したい文字グループをえらぶ



CHARACボタンを押すたびに次のように文字グループが切り換わります。



- SPACEボタンを押すと直接空欄を入力することができます。
- プリセット番号を選ぶとプリセットされている文字を入力することができます。

6 SETボタンを押す



7 手順4-6を繰り返して希望する文字を入力する

8 ENTERボタンを押す

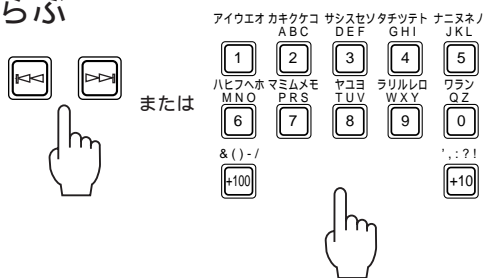


入力中に「DISC STORE」(曲名の場合は「曲番号 STORE」)が表示され、入力が完了すると入力したタイトルが表示され、最後に次のタイトル編集メニューのモードが約8秒間点滅します。

ご注意

タイトル入力中にTITLE SEARCHボタンを押すと上書き / 挿入書きモードに変わります。

5 <<、>>ボタンまたは数字ボタンを押して入力したい文字をえらぶ



各ボタンを押すたびにカーソルが点滅ながら次のように文字が変わります。

<<または>>ボタンのとき

→ A → B → C..... → Y → Z → 空欄

→ a → b → c..... → y → z → 空欄

→ 0 → 1 → 2..... → PRE 8 → PRE 9

→ ア → イ → ウ..... → ペ → ポ → - → 空欄

数字ボタンのとき(例: 2ボタン)

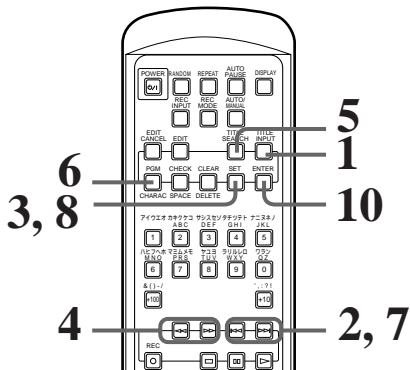
→ A → B → C

→ a → b → c

2
→ カ → キ → ク → ケ → コ

MDを編集するには

曲名やディスク名を修正するには

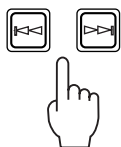


1 TITLE INPUTボタンを押す



8秒以内に手順2の操作をしてください。
8秒以上たつとタイトル入力モードは解除されるので、そのときはもう一度TITLE INPUTボタンを押してください。

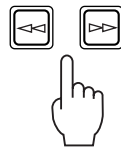
2 TITLEインジケータが点滅しているあいだに<<または>>ボタンを押して編集メニューを選ぶ



3 SETボタンを押す



4 <<または>>ボタンを押して修正したい文字にカーソルを移動する

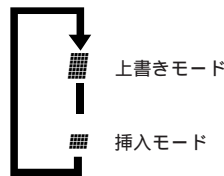


DELETEボタンを押すとカーソル位置の文字は消されます。

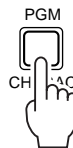
5 TITLE SEARCHボタンを押して入力する位置モードをえらぶ



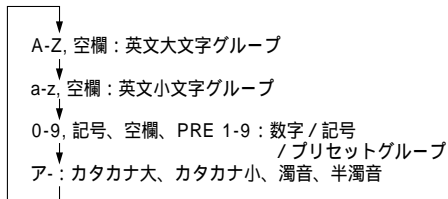
ボタンを押すたびに、次のようにモードが切り換わります。



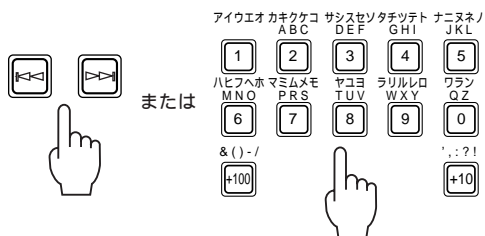
6 CHARACボタンを押して入力したい文字グループをえらぶ



CHARACボタンを押すたびに文字グループが次のように切り換わります。



7 <<、>>ボタンまたは数字ボタンを押して入力したい文字をえらぶ



各ボタンを押すたびにカーソルが点滅ながら次のように文字が変わります。

◀◀または▶▶ボタンのとき

→ A → B → C → Y → Z → 空欄

→ a → b → c → y → z → 空欄

→ 0 → 1 → 2 → PRE 8 → PRE 9

→ ア → イ → ウ → ペ → ポ → → 空欄

数字ボタンのとき(例:2ボタン)

→ A → B → C

→ a → b → c

2

→ カ → キ → ク → ケ → コ

- ・SPACEボタンを押すと直接空欄を入力することができます。
- ・プリセット番号を選ぶとプリセットされている文字を入力することができます。

8 SETボタンを押す



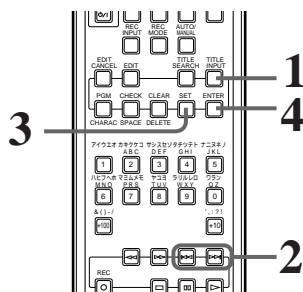
9 手順1-8を繰り返して希望する文字を入力する

10 ENTERボタンを押す



入力中に「DISC STORE (曲名の場合は「曲番号 STORE)」が表示され、入力が完了すると入力したタイトルが表示され、最後に次のタイトル編集メニューのモードが約8秒間点滅します。

曲名やディスク名を全部消すには

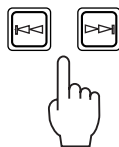


1 TITLE INPUTボタンを押す



8秒以内に手順2の操作をしてください。8秒以上たつとタイトル入力モードは解除されるので、そのときはもう一度TITLE INPUTボタンを押してください。

2 TITLEインジケータが点滅しているあいだに「ALLERASE?」が表示されるまで◀◀または▶▶ボタンを押す



3 SETボタンを押す



「ok?」が表示されます。

4 ENTERボタンを押す



次のように表示され、タイトルがすべて消されます。「COMPLETE!」「DISC」

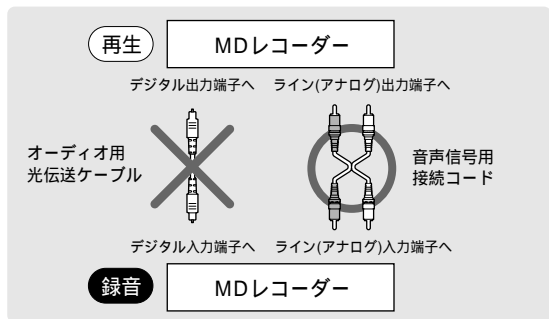
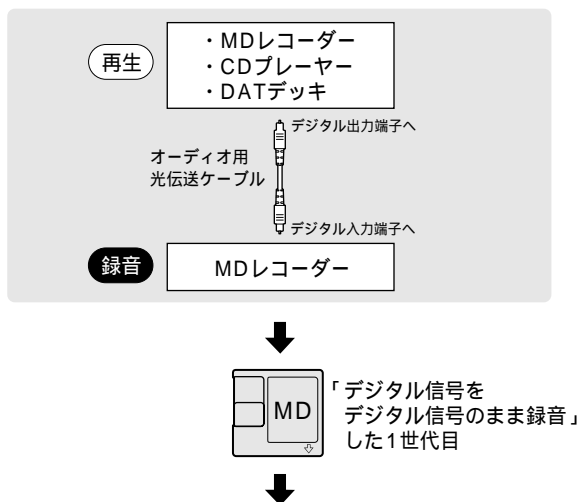
デジタル録音のルール (シリアルコピーマネージメントシステム)

デジタル入力で録音したMDをさらにデジタル録音することはできません。本機は、シリアルコピーマネージメントシステムの規格に準拠したデジタルオーディオ機器です。「シリアルコピーマネージメントシステム」は、各種デジタルオーディオ機器の間で、「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」というデジタル信号どうしのコピーを「1世代まで」と規制したものです。2つの原則があります。

原則1

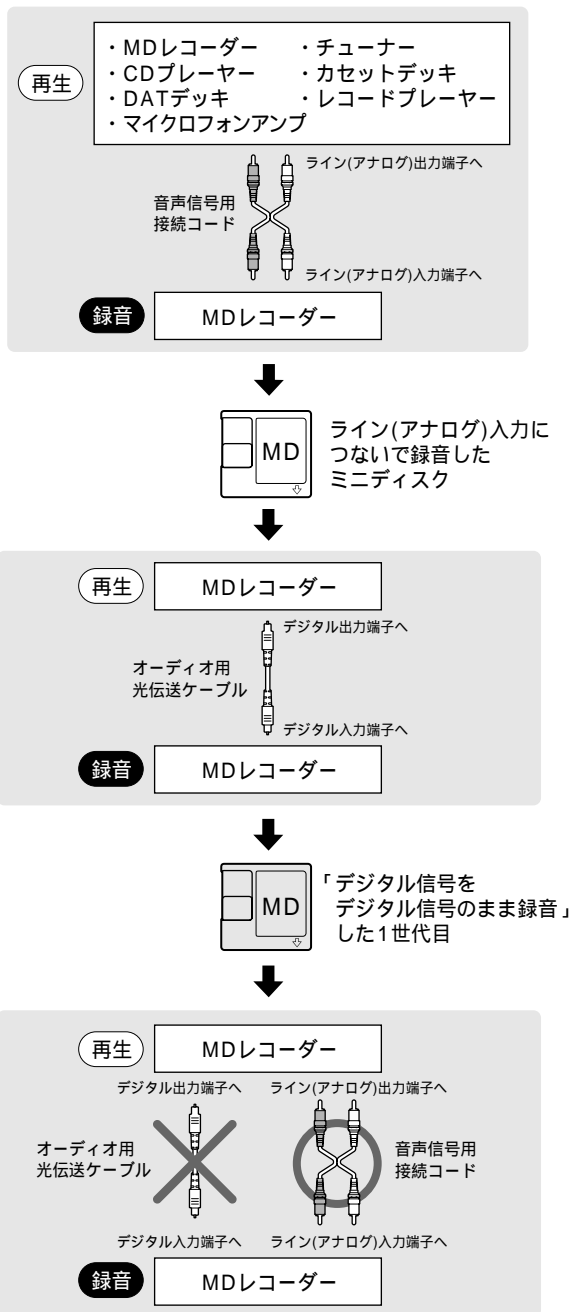
コンパクトディスク (CD) またはデジタルオーディオテープ (DAT)、ミニディスク (MD) ソフトから、MDへ「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」できます。

ただし、1度「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」したものを、他のMDへ、「デジタル信号のままデジタル録音」できません。



原則2

アナログレコードやFM放送などを本機で録音したMDから、他のMDへ、「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」することができます。ただし、1度「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」したミニディスクから、他のミニディスクへ、「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」できません。



MDレコーダーどうしをアナログ端子につないだときは、何回でも録音できます。

システム上の制約について

MD(ミニディスク)システムは、従来のカセットやDATとは異なる方式で録音が行われます。そのため、いくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

最大録音可能時間(60分、74分)に達していなくても、「DISC FULL」が表示される。

MDシステムでは、時間に関係なく、曲数がいっぱいになると「DISC FULL」の表示が出ます。255曲以上は録音できません。さらに曲を追加するには、不要な曲を消すか、2枚目のMDに分けて録音してください。

曲数にも録音時間にも余裕があるのに、「DISC FULL」が表示される。

曲中にエンファシス情報などの入切が多く行われると、曲の区切りと同じ扱いになり、時間や曲数に関係なく「DISC FULL」の表示が出ます。

短い曲を何曲消してもMDの残り時間が増えない。

MDの残り時間を表示するとき、12秒以下の部分は無視するので、短い曲を消しても時間が加算されることがあります。

曲をつなげない。

編集を行ってできた曲は、つなぐことができない場合があります。

MDに録音した時間と残り時間の合計が、最大録音可能時間(60分、74分)に一致しない場合がある。

通常、1クラスタ(約2秒)が最小単位で録音されます。それに満たないものでも2秒分のスペースを使います。このため、実際に使用できる時間は少なくなります。

また、MDに傷があると、その部分を自動的に削除するので、その分の時間が減ります。

編集でできた曲でサーチを行うと、音が途切れることがある。

曲番が正確につかないことがある。

デジタル接続でCDを録音するとき、CDの録音内容によって、短い曲ができる場合があります。

また、ミュージックシンクロ録音で自動的にトラックマーキングを行った場合、録音するもの内容によっては、曲番が正確につかない場合があります。

「READING」の表示がなかなか消えない。

購入したばかりの録音用MDを入れると、通常より「READING」表示が長く表示されます。

録音済みの部分を消しながら録音すると

MDの残り時間が正確に表示されないことがあります。

何度も繰り返すと、消しながら録音できなくなることがあります。

このようなときは、編集(曲を消すなど)を行ってから録音してください。

録音した時間に対して、録音後の残り時間が、録音前の残り時間よりもかなり減ってしまうことがあります。

曲の途中のノイズなどをこの方法で消すと、曲の長さが変わったりしてしてしまうので適しません。

録音中に曲名を付けることができません。

モノラルフォーマットのディスクでは時間が正確に表示されないことがあります。

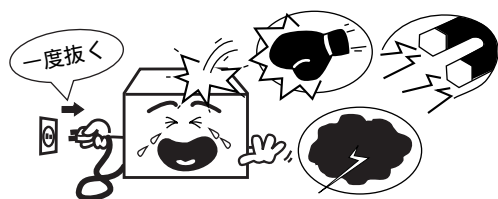
メッセージ表示一覧

お使いになっているとき、状況により、英語のメッセージが出ます。日本語の意味は下の表の通りです。

| メッセージ | 意味 | 解決方法 |
|------------|--|--|
| NO DISC | ディスクが入っていません。 | ディスクを入れてください。 |
| UNLOCK | 入力ソースの電源が入っていないなど、デジタル録音できない状態になっています。 | 「録音するときのご注意」を参照してください。(15ページ) |
| SCMS ON | デジタル録音したMDをさらにデジタル録音することはできません。 | アナログ録音してください。「デジタル録音のルール」を参照してください。(38ページ) |
| Not Audio | 音楽MD以外のディスクが挿入されています。 | ディスクを交換してください。 |
| DISC FULL | MDの残り時間が少ないため録音できません。 | ディスクを新しいものなどに交換してください。「システム上の制約について」を参照してください。(39ページ) |
| TITLE FULL | タイトルがいっぱいです。 | 曲名、ディスク名にすでに256文字入力されているため(カタカナ文字は1文字を2文字として数えます。)これ以上追加できません。 |
| BLANK DISC | MDに何も録音されていません。 | 録音されたディスクを入れてください。 |
| NO TRACK | 曲は録音されていないのにタイトルだけ入力されている。 | 曲を録音してください。 |
| READING | TOC(Table Of Contents)を読んでいます。 | 故障ではありません。 |
| WRITING | TOC(Table Of Contents)を書いています。 | 故障ではありません。 |
| DISC ERROR | TOCにエラーが発生しました。 | 「停止中に多数曲を消すには」(27ページ)を参照して全曲を消すか、他のディスクを使ってください。 |
| EDIT NOW! | 編集中です。 | 故障ではありません。 |
| CAN'T EDIT | 編集操作ができませんでした。 | システム上の制約により、編集できません。 |
| ok? | 編集の実行を確認しています。 | ENTERボタンを押すと編集が実行されます。 |
| PROTECTED | MDが誤消去防止状態(ライトプロテクトON)になっています。 | ライトプロテクトを外すか、ディスクを交換してください。 |
| PLAY ONLY | 再生専用ディスクに録音・編集しようとしてしました。 | 録音用ディスクと交換してください。 |

故障かな？と思ったら

次のような場合は故障でないことがありますので、修理やアフターサービスをお申しつけになる前にあらかじめお調べください。



この製品を使用中に、強い外来ノイズ（衝撃、過大な静電気、または落雷による電源電圧の異常など）を受けた場合や誤った操作をした場合などに、操作を受けつけなくなるなどの異常が発生することがあります。

このようなときは、いったん電源差し込みプラグを抜き、約30秒後に再びつないで操作をやり直してみてください。

こんなとき

ここをおたしかめください

参照ページ

| | | |
|------------|---|---------------------|
| 操作を受けつけない。 | MDが汚れている、または損傷しているため新しいIMDと取り替えてください。 | |
| 再生できない。 | 結露（内部に水滴が付着）しているためMDを取り出して、そのまま数時間置いてください。 電源を入れてください。 MDの矢印の向きに合わせて差し込んでください。 何も録音されていないIMDが入っているため、録音されているMDと取り替えてください。 | 8 13 13 |
| 録音できない。 | MDが誤消去防止状態になっている（「Protected」が表示される）ので、MDの誤消去防止つまみをもどして孔を閉じてください。 音源と正しく接続されていないので接続し直してください。 アナログ入力（ライン入力）時に録音レベルが小さすぎるので、REC LEVEL調節つまみで録音レベルを調節してください。 録音用ディスクと取り替えてください。 残り時間が充分ある録音用ディスクと取り替えてください。または、不要な曲を消してください。 録音中に電源コードが抜かれた、または停電になったため、それまでの録音の内容は失われる恐れがあります。正常に録音できていないときは、はじめから録音し直してください。 | 12 5 16 10 |
| 雑音が多い。 | テレビなどから充分離しておいてください。 | |

仕様

ミニディスクレコーダー部

| | |
|-----------|---|
| 形式 | ミニディスク デジタルオーディオシステム |
| ディスク | ミニディスク |
| 記録方式 | 磁界変調オーバーライト方式 |
| 再生読み取り方式 | 非接触光学式読み取り (半導体レーザー使用) |
| 録音再生時間 | 最大74分 (MDW-74使用時) モノラル録音再生では倍になります。 |
| サンプリング周波数 | 44.1kHz (48kHz/36kHzから 変換可) |
| コーディング | ATRAC (Adaptive Transform Acoustic Coding) |
| チャンネル数 | 2 ch (ステレオ) 1 ch (モノラル長時間モード) |
| 周波数特性 | 20 ~ 20000Hz) |
| ワウフラッター | 測定限界値 ($\pm 0.001\%$ W. PEAK) 以下 |

入出力端子

| | |
|-----------|--------------------|
| 入力端子 | デジタル1 (光1)、アナログ1 |
| 出力端子 | デジタル1 (光1)、アナログ1 |
| システム接続端子 | ミニジャック1 |
| アナログ入力感度 | ライン 500mV / 22k 以上 |
| アナログ出力レベル | 2.0V / 600 以下 |

電源・その他

| | |
|------|------------------------------------|
| 電源 | AC 100V 50/60Hz |
| 消費電力 | 14 W |
| 寸法 | 200 x 75 x 317 mm (幅 x 高さ x 奥行) |
| 重量 | 2.8 kg |

付属品

オーディオ接続コード×2
光ファイバーケーブル×1
コントロールコード×1
リモコン×1
単4電池×2
取扱説明書×1
保証書×1

仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

保証期間

お買い上げ日より1年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

- 技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- 部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口
AVお客様ご相談センター
TEL (03) 5488 - 5500

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口)

- 北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108
- 仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249
- 首都圏 〒211-0025 川崎市中原区木月1184
TEL (044) 434 - 3100
- 東京 (お持ち込み修理のみ取扱い)
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11
TEL (03) 5488 - 6625
- 浜松 〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
TEL (053) 465 - 6711
- 名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230
- 大阪 〒565-0803 吹田市新戸屋下1-16
ヤマハ(株)汗丘センター内
TEL (06) 877 - 5262
- 広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874 - 3787
- 四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック神戸高松店内
TEL (087) 822 - 3045
- 九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



永年ご使用の本機の点検を!

こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部 TEL (053) 460 - 3451

品質保証室 TEL (053) 460 - 3405

住所および電話番号は変更になることがあります。

